☆復活節第6主日（5月14日）の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

第一朗読　（使徒たちの宣教　8 章 5-8、14-17 節）

そのころ、フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた。群衆は、フィリポの行うしるしを見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った。 実際、汚れた霊に取りつかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫びながら出て行き、多くの中風患者や足の不自由な人もいやしてもらった。 町の人々は大変喜んだ。 エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。 人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

第二朗読　（使徒ペトロの手紙Ⅰ　3 章 15-18 節）

愛する皆さん、心の中でキリストを主とあがめなさい。 あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪口を言ったことで恥じ入るようになるのです。 神の御心によるのであれば、善を行って苦しむ方が、悪を行って苦しむよりはよい。 キリストも、罪のためにただ一度苦しまれました。 正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。 あなたがたを神のもとへ導くためです。
キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。

福音朗読　（ヨハネよる福音書　14 章 15-21 節）

　そのとき、イエスは弟子たちに言われた。
「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。 父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。
　この方は、真理の霊である。 世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。 しかし、あなたがたはこの霊を知っているこの霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。 わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。 あなたがたのところに戻って来る。
　しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。 かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる。
　わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。 わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。 わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。」

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

　今日の日曜日は雨になりました。ちょっと残念な気もしますが、植物にとっては大事な雨のようです。最近、幼稚園で野菜の苗を植えました。緑色のトマトの苗から真っ赤なトマトができるのです。不思議です。草のようなトウモロコシの苗から、粒々のトウモロコシができるのです。不思議です。この世は不思議で満ちあふれているのです。
　今日は「世界広報の日」です。情報が溢れていて何が正しいのかわからないくらいです。その中で神さまの情報をきちんと伝えることは大事です。それにはまず私から正しい言葉とおこないを始めましょう。コロナ感染症が季節性感染症と同じ五類に位置付けられました。以前のように対面で話ができるようになりました。私たち自身が広報の担い手であることをもう少し意識しましょう。今日は何人の人とお話が出来ましたか？

第一朗読　（使徒たちの宣教　8 章 5-8、14-17 節）

使徒たちの宣教活動はまた聖霊による癒しの活動でもありました。現代と同様病に苦しむ人たちが多かったのです。知り合いの方で病院におられる方も多いでしょう。どうぞ出かけていき、はげまし、なぐさめて差し上げてください。神さまのことを語るのに心配はいりません。聖霊が働かれるからです。出かける行動が大事なのです。

第二朗読　（使徒ペトロの手紙Ⅰ　3 章 15-18 節）

ペトロは宣教活動の心得を説いています。それはまず人々の心に「素朴な疑問を起こす生活を送ることです。あなたがたはどうしてそのような希望を持って生活しているのですか？」と。そして、そのような疑問に答えられる「準備をしておくことです」と。またそのような疑問に答えるときには「穏やかで、敬意をもって、正しい良心で」するようにとも勧めています。使徒たちの宣教の時代は迫害が激しさを増していく時代でした。そんな迫害をじっと身に受けていくキリスト者たちの生活はきっと当時の人たちからは「なぜ、そんなにしてまでキリストを信じるのか？」という疑問があったのでしょう。ペトロはその疑問に答える準備をしましょうと述べ励ましているのです。私は準備が出来ているでしょうか。

福音朗読　（ヨハネよる福音書　14 章 15-21 節）

イエスは自分が選んで弟子とした人たちのことを大好きだったようです。いろいろ欠点も多かった弟子たちですが、一緒に生活した三年ほどの間に心を通わす日々があったのでしょう。受難に向かう時期が来た時にイエスは「私はあなたがたをみなしごにはしない」強調されます。弟子たちはイエスがどこかへ行ってしまわれるということを一番恐れていました。それを知っていたイエスは「私が御父と一緒であるように、私もあなたたちと一緒にいる」と言われるのです。「私は御父と一緒にいる」ということはイエスがこの世に来られた時からのイエスの心にあることでした。「私はあなた

たちをみなしごにはしない」というイエスの言葉を信じて今日も力強く生きていきましょう。

ミサの豆知識（１）　「ミサに行く」

　私たちは良く「ミサに行く」と言います。教皇ヨハネ・パウロ二世は「ミサとは地上の天国である」と言われたそうです。つまり私たちが祝うミサとは、それがいくら天上的なものとは感　じられないような時でさえも、現実としての天上の祭儀への神秘的な参加だと言えます。（第二バチカン公会議「典礼憲章」8 項参照）ですから、ミサに行くこと、ミサに参加することは復活した主との出会い、主との出会いのために教会が神の聖所に飛翔していくこと、キリストの花嫁として私たちが神の国の祝宴を喜び祝うことであると言えます。

『ミサ聖祭　聖書にもとづくことばと所作の意味　フリープレス』参照。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光